



全国



第7号

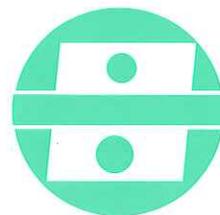
母親クラブだより

「みんなで育てる地域の子」ーみんな仲間よ母親クラブー

<http://www.hahaoya-club.ne.jp/>



- 子ども読書年
- 平成12年度主な年中行事
- 活動報告
- 行政だより
- 関係団体紹介
- 第3回“メディア・チェック”
の集計結果
- コラム
- 児童館の遊び紹介
- 事務局便り



発行

全国母親クラブ連絡協議会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1 こどもの城10F
財団法人 児童健全育成推進財団内

TEL. 03-3797-8183～4 FAX.03-3486-5142



※※表紙の写真を募集しています。日々の活動や催事など、全母協事務局までどしどしご応募ください。※※

子ども読書年

「子ども読書年」とは…

まずはじめに、「子ども読書年」の概要をひとりで表すなら…

『二〇〇〇年二年間を「子ども読書年」として、子どもがより読書に親しむことのできるような機会・環境づくりを、国を挙げて推進する』—ということなのです。

昨年八月九日と十日の両日に、子どもの読書に関する問題を国として取り組むべきとする「子ども読書年に関する決議」がそれぞれ、参議院と衆議院の本会議で提案され、全会一致で決議採択、それを受けて故小渕首相が次のように所信表明を行いました。

首相所信表明より(抜粋)

「次代を担う子供たちが、健やかに成長していくために、子供たちの体験活動の機会の充実を図ることが重要であり、中でも読書は、伝統的な文化遺産を継承するとともに、子供にとって豊かな感性や情操、そして思いやりの心をはぐくむ上で大切な営みであります。今日の子供は読書量が減少していると指摘される中で、政府といたしましても、関係者と手を携え、子供の読書の振興を図ることが肝要であると考えております。」

このような手続きを経て、正式に国の事業として二〇〇〇年「子ども読書年」が制定されました。

読む人も
読まれる本も
うれしいね



子ども読書年

平成12年度 主な年中行事

●母親クラブ指導者研修会

<中国・四国・九州ブロック地区>

開催日 平成12年6月 8日(木)～ 9日(金) 開催地「岡山県」

<中部・近畿ブロック地区>

開催日 平成12年7月13日(木)～14日(金) 開催地「和歌山県」

<北海道・東北・関東ブロック地区>

開催日 平成12年9月 7日(木)～ 8日(金) 開催地「福島県」

●全国母親クラブ連絡協議会役員会

開催日 平成12年 7月27日(木)～28日(金) 開催地「東京・渋谷 こどもの城」研修室

●第二十七回地域組織活動指導者母親クラブ全国大会

開催日 平成12年11月 9日(木)～10日(金) 開催地「東京都」

全国母親クラブ 活動報告

北海道・東北・関東
ブロック活動報告

児童福祉の向上に 寄与する活動

群馬県母親クラブ連合会

群馬県母連では、子供達の健やかな成長と親子のふれあいを願い「親子のつどい」を始めて今回で第十六回となります。

この行事には、県母連加盟の会員親子の他一般の方が、県内各地より例年四百余名参加し、終日、親子の賑やかな声が響きわたります。行事は企画から運営まで、県母連理事と各クラブからのボランティアによって行われます。平成十一年度は、午前の部「レクリエーション指導」午後の部は「笑運動会」と称するミニ運動会を行いました。競技のネーミング一つにも工夫をこらし、楽しいイメージを作り、最後は体育館の掃除を兼ねた「そうきんがけレース」で締めくくりました。

初めは遠慮がちだった親たちがいつの間にか本気になり親子で汗まみれになっていきます。普段出番の少ない父親がハッスルの日であり又、母親の活動の一端を知って頂く日もなっています。

次に参加者の声を機関誌よりご紹介します。

◇「おかしゆらゆら」は、手をつかわないでくわえてとろうとしたら、すべってむずかかったです。りすとときりは、りすになっておおかみからにげて、あたらしい木にかけこむのがおもしろかった。

◇普段、家族一緒に体を動かす事が少なく、私も小学生の頃に戻ったようにはしゃぐ事ができ、心地よい疲れが体中に残りました。(中略)帰り道では一緒にやったゲームや運動の話が絶えませんでした。自宅に着く頃、子供達からは寝息が聞こえ久々に良い汗が流せ、良い思い出の一日となりました。

当母連では、数年前より各種行事を一般の方々に呼びかけ、毎回ご参加頂いております。家庭や地域の子育て力の低下が言われている折、これからも地域や他団体と連携を取り親子が楽しくふれあえる場面を作っていきたいと思っております。

記 中村 京子



中部・近畿
ブロック活動報告

親子及び世代間の交流、文化活動

福井県母親クラブ
鯖江市新横江母親クラブ

子ども達を取り巻く環境は、年毎に厳しく、我が子を虐待する若い母親の育児ノイローゼ、罪もない児童の殺傷事件等、子ども達の心を傷つけるような世相の中で育つ子ども達を暖かい眼差しで見守るためにも、今母親クラブ活動が欠くべからざる活動として重要視されてまいりました。

特に、親子三世代間の交流が大切であることを痛感いたします。世代間での知恵の出し合い、体験を通しての指導・アドバイスそして、人としての心のおきどころ、物の見方、考え方等等学ぶ事が数多くあると思います。人間関係の難しさの中にも世代間を越えたコミュニケーションの深まったこの感動は、又格別のふれ合いができると思います。

では、ここで深まった活動を紹介いたします。

(一)もつつき会

○月○日、みんなおいでよ餅つき会に、核家族の進行によって、なかなか家族でする機会が遠ざかった今日、お父さんのペタン・ペタンのきねの音、お母さんの臼取り、おばちゃんとおじいちゃん、きな粉餅にする子、ぜんざいで食べる子、おろし餅で食べる子、なかなか食欲旺盛です。みんな仲良くこんな光景に拍手を送りたい。

(二)カレーパーティーでふれ合いを大勢で食べるのは格別、大きなお鍋

でじっくりと煮えるカレーのルーは又一味違ったおいしさがある、大盛にしてもお代りする子、一杯がやっつこの子、様々ですが、これを見守る大人達も、ちよつとつられて食欲が出る。

(三)伝承遊びで、子どもの自立を

お手玉・綾取り・語り部・ランドゴルフの動きが少々悪いかなあと遊ぶ、お手玉母さん、綾取り夢中のおばあちゃん、語り部上手なお父さん、ランドゴルフの指導するおじいちゃん、みんな楽しそう。

遊びを通して学ぶことは、人間形成に大切であることは知られています。特に遊びによって知る人としてのルール、やせ我慢する心は、大人となる道しるべを学ぶ大切なことです、子どもを自由に遊ばせる、遊ぶ手ほどきを三世代交流によって学び、お年寄りとのふれ合いを、そして楽しさを覚え、仲良くする子どもの姿に拍手と微笑を送りたいものです。



中国・四国・九州
ブロック活動報告

児童養育に関する研修活動

熊本県母親クラブ連絡協議会

『おたから・おたから』幼き日耳にした言葉が、あどけない子ども達を見ているとふとよぎります。健やかな子どもの成長を願いつつ行う全体研修は、親子ふれあい研修、移動研修、ブロック研修を含めると年五回程になります。

親子ふれあい研修は、自然の中で心身共にリラックスし、親も童心に帰り、一緒に楽しく過ごす様に、小物作りと身体を動かす事を取り入れます。夢中で作ってる父子、仕上がりに満足気です。幼い子ども大人もスポーツチャンバラで日頃の鬱憤が晴れそうです。共に流す汗は疲れを癒すかの様でいい笑顔が戻ってきます。一泊の時は、充分な話し合いの時間もあり、日頃会話の少なくなつた父親の戸惑い等、いろいろな本音が聞かれ話しも弾み皆の胸に思い出深い研修になっていきます。県内移動研修で、各地の伝統や文化にふれ、土地に親しみを覚え、ブロック研修では、近隣のクラブの共通性を活かした独自性のある研修により、仲間意識を高め、子育てのサポートとなり得るクラブ作りをめざしたいと思います。歩き始めて九年、行政・全母協のご支援を受け試行錯誤しながらの活動です。活動しながら、伝えるべき事をちゃんと伝える親だと言えののだろうか心許なくなり、反省しながら、子育ての難しさを感じます。「世の中で一番大切なものは何だと思えますか」「命の重さは誰が一番だと思えますか」

先日、講演会で先生が問われ、少々むずかかった幼児と参加していた会員の方を向かれ、「そこにいる子ども達ですよ」「命一番、金は二の次」と説かれる先生のお話しに、尊い命を守るべく今一步、考えを深めていかなければと思えます。

『おたから』の言葉から、愛情・ぬくもり、そして心のゆとりを感じます。昔からの大事なものが忘れる事なく心が伝わるように更なる活動の充実を願いつつみんな力を合わせて楽しく学んでいくクラブ作りに努めなければと思います。



行政だより

平成十二年度児童健全育成対策について

厚生省児童家庭局育成環境課

はじめに

続発する少年事件や児童に対する虐待の増加などが重大な社会問題となっている今、日頃より全国各地域において、「まちの子はみんなわが子」を合い言葉にした母親クラブのみなさんのご尽力に感謝申し上げます。

平成十二年度予算における児童健全育成対策の概要は以下のようになっております。

- 子育て支援のための相談室や中・高校生等のための創作活動室及び地域交流スペースなど、児童館の補助基準面積の改善
- 民間児童館活動の充実のための加算補助(新規事業)
- 放課後児童生活指導援助事業
- 民間児童館地域活動推進事業
- 児童福祉施設併設型民間児童館事業
- 放課後児童健全育成事業の充実
- 新エンゼルプランにおいて実施か所数を計画的に増やすこととし、九千か所から九千五百か所へ五百か所の増。
- 補助基準単価の改善
- 児童環境づくり基盤整備事業等について
- 小・中学生の健全育成に資する子ども会議の開催や累年齢交流事業なども児童虐待の防止等に関する法律が成立国及び地方公共団体の責務等が規定され、児童相談所の体制や関係機関と

の連携の強化等が明確にされました。地域ぐるみで子どもを見守り、ケアしていくネットワーク体制を図っていくためにも、子どもの虐待を発見した場合、国民の誰にも通告義務がある児童福祉法第二五条ことをまずは国民のすべてが知らなければなりません。おわりに

関係団体紹介

こども未来財団紹介



オール・キッズトライアスロン大会

こども未来財団は、育児および児童の健全な育成等を支援する事業の振興、これらに関する調査研究その他子育て家庭を支援し、子どもの健やかな成長を支えるために必要な事業を行い、児童の健全な育成に寄与し、活力ある社会の維持・発展に資することを目的として厚生大臣の認可を受けて設立された財団法人です。

平成六年の設立以来、当財団は多岐に

わたる事業を実施しておりますが、事業は国の助成による事業と、財団の基金の運用益による事業に分かれています。国の助成による事業としては、

- 企業が、従業員のために事業所内に保育施設を設置する場合に助成を行う「事業所内保育施設整備等助成事業」
- 通勤に便利な駅ビルや駅に隣接するオフィスビルなどにおいて乳幼児を保育する施設に対して助成を行う「駅型保育試行助成事業」
- 乳幼児の保育と小学校低学年児への遊びの指導や保護を一体的に行う民間児童館に対してモデル的に運営費の補助を行う「保育所併設型民間児童館助成事業」
- 児童の養育に不安や悩みを持っている家庭に対し、民間の児童養護施設等で、休日・夜間等においても養育相談を行う「都市家庭在宅支援事業」
- その他、新規の事業として、
 - 子育て支援サービス情報、保育所の利用方法、SIDS予防、アトピー対策など誰もがインターネットで検索できる「子育て支援情報提供事業」を準備中です。
 - 基金の運用益による事業としては、
 - 事業所内保育施設等の施設整備費の自己負担金の借入れに対する利子補給制度
 - 乳幼児連れで街にでたときの手助けとして、デパート・スーパーなど多数の人が利用する場所に授乳コーナーを設置する場合同助成する「授乳コーナー整備事業」
 - 子育ての喜び、感動、親子のふれあいを、子育てに関するさまざまな体験をエッセイとして募集する「こども未来賞」

● 仕事と出産・育児を上手に両立させる上で役立つことや、地域や社会全体で取り組む新たな子育ての方向性について考える「ワーキングマザーのための子育てシンポジウム」

- 本年開催のシドニーオリンピックの正式種目になったトライアスロンですが、中学生による「オールキッズトライアスロン大会」(写真参照)
- 小学生とその親が同時にパソコンに触れ、親しめる機会を提供する「親子パソコン体験教室」
- 子育て支援に関するさまざまな情報等を提供する「こども未来」や子どもの栄養問題と児童福祉施設の給食実務の情報盛り込んだ「こどもの栄養」の出版等の事業を行っております。
- これからも、地域社会における子どもの健全育成に懸命に取り組んでおられる全国の母親クラブの皆様のご協力を賜りながら、二十一世紀に向けて事業の展開にさらに努めてまいります。
- 子育てに関する調査研究事業
- 事業所内保育施設保育活動促進事業
- 母親クラブ活動
- 幼児や小学校低学年の児童を対象に、集団遊び、体力づくり、レクリエーション等を行う「職域児童助成事業」支援事業
- 企業等の福利厚生施設の開放事業
- 保育園までの送り迎えや帰宅するまでの間に利用する在宅保育サービスへの助成事業(全国ベビシッター協会に委託)
- 児童健全育成ボランティアフェスティバル助成事業
- 全日本少年武道練成大会
- こどもの日ラジオスペシャル

第3回 “メディア・チェック” の集計結果

調査概要

- 調査日時
1999年11月15日～21日
- 調査対象者
全国母親クラブ連絡協議会加盟の母親クラブ会員
- 調査方法
郵送調査
- 調査対象件数
発送数 11,334件
回収数 2,233件
集計対象数 1,859件

発送数一一、三三四に対し、回収数一二、三三三(九九・七%)、有効集計対象数一、八五九(六六・四%)という結果であった。回収率は前回の第二回(一六・九%)を若干上回り、有効集計対象数では、三五〇件の増となった。無効な回答の割合は二・三%(三七四件)とほぼ前回並で、モニターの習熟が窺われる。

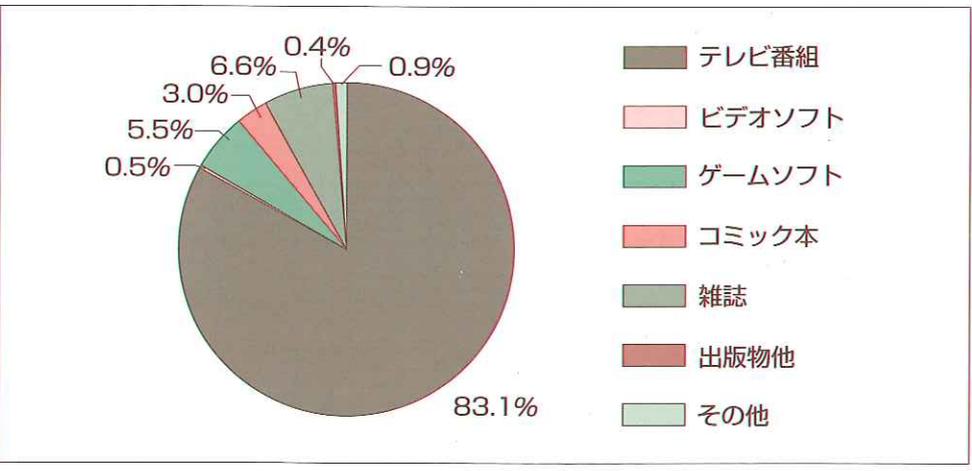
県別の回収状況は、福井県(二五七件)、和歌山県(二五二件)、愛媛県(二七七件)、富山県(二〇七件)、愛知県(二七一件)、宮城県(二二二件)の六県から寄せられた情報が百件を越えたが、秋田県と島根県の二県からは回答がなかった。本モニターは、自主的なモニター事業であり、所定のモニター期間に「もし該当するものがあれば」という大前提の下に実施されており、モニターの選定の仕方も各クラブに任されている。したがって、各クラブのモニターが、必ず一件以上の有害情報を見つけて報告しなければならぬというように「強制的」なものにはなっていない。右の結果は、まさにこのモニター事業の基本的な性格を反映するものと考えられる。

本モニター事業は、県母連または市母連が設置されている全国三四の県別を実施され、その回答結果を基礎に積み上げを行うことによって、全国レベルの情報を得るといっていい。現在、地域別の全母協加盟のクラブ数と会員数には大きな偏りがあり、当然ながら県別の回収数にも大きな開きが生じうる。また、すべての都道府県に支部をもっていないため、残念ながら全国のすべての地域をカバーするモニターについては、予めお断りしておかなければならない。

前回に続き、今回も全体の八割を越す情報がテレビ番組で占められたが、有害の有無とその程度にかかわらず、引き続き、出版物や各種ソフト等、その他のメディア情報についても十分に注意が払われることを期待したい。

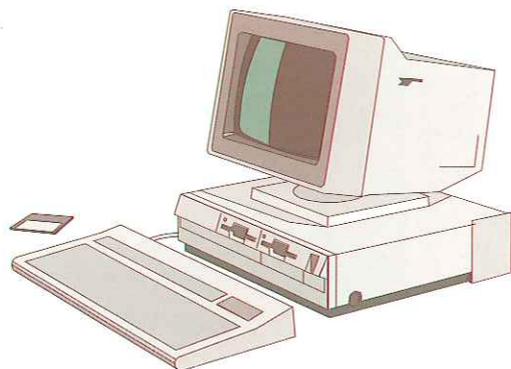
こうしたモニターを行う以上、テレビ番組、ゲームソフト、コミック本……という具合に、各ジャンル別の制作者とタイトルが件数の多い順に実名で公表されることは不可避である。しかし本事業においては、必ずしも番組やソフトの「タイトル」や「制作者名」を实名で公表すること自体に意義を求めたものではない。そうではなく、あくまでもそれは、今日、各種メディアを通じて媒介され、日頃、児童が目にしたり、手に取ったりしているものを、父母の視点で一定の方法に基づいて点検した結果であり、「子育て」と「児童の健全育成」の一助とするための自主的な一つの試みに過ぎない。

したがって、それが制作者や関係業界の改善努力や自主規制に訴えかける



側面をもつことは否定できないが、しかしこれをもつてただちに、母親クラブの名において個々の番組や出版物、各種ソフト類に「有害」のレッテルを貼ったり、社会に対して「告発」したりするものではないことを明記しておきたい。

以下、モニター項目別に特筆される傾向や特徴について、ごく簡単にまとめ



各ホームページアドレス
厚生省
<http://www.mhw.go.jp/index.html>
全国母親クラブ連絡協議会
<http://www.hahaoya-club.ne.jp/>
財団法人 児童健全育成推進財団
<http://www.jidoukan.or.jp/index.html>

めておきたい。上述のとおり、本モニターはクラブ員が活動する各地域を基盤に実施されたが、地域別の報告数にばらつきが大きいこともあり、全国ベイスでのまとめたい。各都道府県別については、モニター各位において集計結果を検討・分析され、問題点をまとめられるようお願いしたい。

コラム



「お父さんと一緒」

宮城県富谷町富ヶ丘母親クラブ

町内の夏まつりで、お母さん達が牛乳パックで作った「おみこし」を、子ども達が楽しそうにかつぐ姿を見て、自分達も子ども達のために何かできるのではと、翌年の夏にお父さん達が毎晩集まって「おみこし」を作ったのが、お父さんの集まりのきっかけでした。

自分達も楽しみたいということから、月一回集まって、子どものことを話しながら交流を楽しんでいます。恒例になっているサンタパレードでは、サンタやトナカイの服を着てプレゼントの入った大きな袋をかっぎ、希望のあった会員の家をまわり

子ども達にプレゼントをわたして歩きます。今年のサンタは、ハンドベルやアコーディオンを使って「きよしこの夜」「ジングルベル」の演奏もプレゼントしてくれました。子どもと接する時間を作り、一緒に遊ぶ中から子育てに自然に参加しているお父さんの姿は、子どもだけでなくお母さんもウキウキ、ワクワクしてまいります。

記 高橋 友子



児童館の遊び紹介

ひょっこりひょうたんオニ

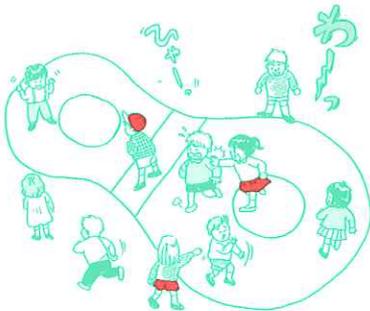
地面につかき書いたひょうたんの絵見れば見るほど、何かに似てるぞ：お母さん？ それとも担任の先生？ 言ったらどんな顔するかなぁ

〈あそびかた〉

- 1 オニを一人決めよう。
- 2 オニはひょうたんの外、橋、丸の中を移動できるよ。
- 3 他の人はひょうたんの中をオニにタッチされないように逃げ回ろう。
- 4 タッチされた人はみんなオニになっていくぞ。
- 5 最後まで残った人が勝ちだよ。その人が次のゲームのオニになろう。

〈バリエーション〉

- 1 橋をオニのケンケンゾーンや四つん這いゾーンにして変化をつける。
- 2 慣れてきたら橋をなくしてみる。
- 3 ひょうたんだけでなく、色々な形で試してみるのも面白い。



児童館研究委員会編

「あそびの宝箱」より

事務局便り

昭和四十九年十一月の全国母親クラブ連絡協議会設立当初から事務局を引き受けてくれた財団法人東邦生命社会福祉事業団と財団法人全国児童館連合会が、平成十二年四月、志を共に統合し「財団法人児童健全育成推進財団」として新たなスタートをきりました。

今後は、新財団に事務局の指導、援助をいただくこととなりますのでご承知おきください。

なお、事業団山崎三鶴常務は新財団の理事に就任、堀内良昭総務部長は退職されました。

有珠山義捐金について

ご協力有り難うございました。お蔭様で六、三〇二、二七四円という義捐金が多くの方の会員の皆様から寄せられました。

会長お見舞い文、応募者名簿を添えて虻田町災害対策本部宛お届けいたしました。

詳細については、後日ご報告申し上げます。

